

検討した。十二指腸潰瘍24例，慢性胃炎24例，正常者47例を対象とし，免疫染色にて前庭部G，D細胞数を検討した。次に十二指腸潰瘍15例，慢性胃炎10例，正常者35例の試験食後血中ガストリン値を測定した。前庭部D細胞数 (no/unit area) は十二指腸潰瘍  $2.5 \pm 0.2$ ，慢性胃炎  $5.8 \pm 0.7$  であった ( $p < 0.01$ )。試験食後 integrated gastrin response 値 (pg · min/ml) は十二指腸潰瘍  $12301.2 \pm 1304.7$ ，慢性胃炎  $8804.9 \pm 773.4$  であった ( $p < 0.05$ )。十二指腸潰瘍の発生には，*H. pylori* 感染と共に前庭部D細胞数の著明な減少，これによる血中ガストリン分泌の高反応が関与していることを明らかにした。

#### 8. Development and validation of an ultrasonographic activity index of Crohn's disease

(体外式超音波法を用いたクローン病の活動度のスコア化に関する考案)

二 神 安 弘 (内科学第一)

本研究は非侵襲的検査法である体外式超音波によるクローン病の腸管炎症の活動度のスコア化 Ultrasonographic activity index of Crohn's disease (UICD) を考案し，Crohn's disease activity index (CDAI)，内視鏡，造影X線検査，血液生化学所見と比較検討した。対象はクローン病患者55例で，方法は超音波検査による異常所見を Type A～C に分類し腸管を十二指腸から直腸まで8区分した。Type A: 1，Type B: (腸管壁厚 mm-2) × 2，Type C: (腸管壁厚 mm-2) × 4 点として各区分毎に算出合計した。また内視鏡，造影X線検査は数石像 10，縦走潰瘍 5，アフタ様潰瘍 3，陈旧性変化 1 点とし同様に算出合計した。内視鏡，造影X線による評価と UICD との間では0.79と強い相関係数を示したが，CDAI，血液生化学所見との間では有意ではあるが弱い相関であった。UICD はクローン病の腸管炎症の活動度の客観的な指標で臨床上の有用性

が示唆された。

#### 9. P53 mutations and telomerase activity for the preoperative diagnosis of pancreatic cancer

(p53 およびテロメラーゼによる膵癌術前診断)

##### 1) Telomerase activity for the preoperative diagnosis of pancreatic cancer

(テロメラーゼ活性による膵癌術前診断)

##### 2) The establishment of a preoperative diagnosis of pancreatic carcinoma using cell specimens from pancreatic duct brushing with special attention to p53 mutations

(膵管ブラッシング細胞からの p53 遺伝子変異検出による膵癌診断)

岩 尾 年 康 (内科学第一)

【目的】膵液中の分子生物学的マーカー (p53，テロメラーゼ) を利用した早期の膵癌の診断を目的とした。

【対象】ERCP を行った症例のうち，膵癌59例，慢性膵炎47例，膵管内乳頭腺腫11例を主な対象とした。

【方法】ERCP 時に細胞を採取し，p53 免疫染色，直接塩基配列決定法を行い p53 異常の検出を行った。テロメラーゼ活性は，TRAP 法で検出を行った。

【結果】膵癌44例中36例 (82%) に p53 陽性細胞を認め，慢性膵炎では認めなかった。又，14例については p53 遺伝子解析を行い，14例中12例 (86%) に遺伝子変異を認めた。テロメラーゼ活性は，膵癌15例中13例 (87%) で活性を検出し，膵上皮内癌でも活性を認めた。

【結語】膵液中の p53 異常の検出およびテロメラーゼ活性は，膵癌の補助診断として有用と思われた。テロメラーゼ活性は特に上皮内癌の診断にも有用であった。

### 第 4 3 8 回

## 広島大学医学集談会

(平成11年12月2日)

——学位論文抄録——

#### 1. Cdc42 and Rac1 regulate the interaction of IQGAP1 with $\beta$ -catenin

(低分子量 GTP 結合蛋白質 Cdc42 と Rac1 は標的蛋白質 IQGAP1 と  $\beta$ -カテニンの結合を制御する)

深 田 正 紀 (生化学第一)

カドヘリンを介した細胞間接着はダイナミックに再